

「若い」と向き合う

part 1

団塊の世代（1947年から1949年の第一次ベビーブームで誕生した方）が、2015年（平成27年）に全て65歳以上の高齢になり、高齢者の人口割合を更に押し上げると言われています。

今回から、シリーズで私達が必ず直面する「若い」とその生活を特集します。

進む高齢化の現実

当別町の人口は下図のように減少していますが、逆に65歳以上の高齢者人口は毎年100人前後増加しており、比例してひとり暮らしの高齢者も増えています。人は年齢を重ねるごとにくる心身の衰えから、「生活・健康」に対する不安も増えていきますが、各家庭における生活習慣の多様化等に伴い、近隣住民との関わりも希薄化が進んでいると言われており、このこと

が生活の不安を一層増加させています。

「若い」は、決して避けられるものではなく、その現実を受け止め、いかに安心して生活を送るかを考えていかなければなりません。

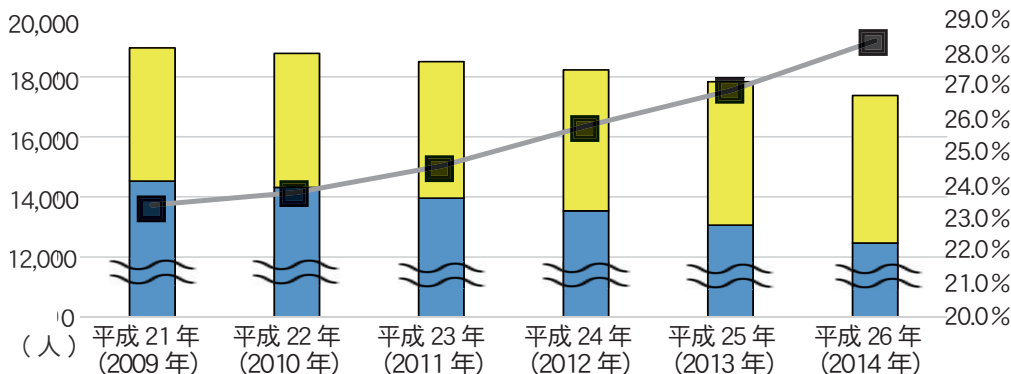
特に高齢者の場合、急な病や介護を必要とする可能性が高くなることから、万が一に備え、改めて医療機関等の緊急連絡先の確認を行うことが必要です。

人口・高齢化率等の推移

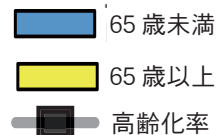
	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
総数	18,958人	18,774人	18,497人	18,228人	17,835人	17,377人
年少人口 (15歳未満)	2,417人	2,278人	2,102人	2,030人	1,868人	1,713人
生産年齢人口 (15歳から64歳)	12,113人	11,982人	11,822人	11,510人	11,190人	10,750人
高齢人口 (65歳以上)	4,428人	4,514人	4,573人	4,688人	4,777人	4,914人
高齢化率	23.4%	24.0%	24.7%	25.7%	26.7%	28.2%
ひとり暮らし世帯 (在宅で65歳以上)	502世帯	515世帯	530世帯	552世帯	589世帯	623世帯
要介護認定者数	702人	740人	749人	764人	821人	861人

平成21年から平成26年までの5年間で、65歳以上の高齢化率は**4.8%**も増加しており、このまま高齢化が進むと平成29年前後には町民約3人に1人が65歳以上の高齢者となる可能性があります。

資料：住民基本台帳4月1日現在、高齢者等実態調査、介護保険事業状況報告より



高齢化率が毎年、右肩上がりに…。この現実に向き合いますか？



『孤立死』を未然に防ぐために

何らかの原因により、住居内で誰にも看取られず亡くなってしまう「孤立死」。

ひとり暮らしで近隣住民との接点も少ない高齢者にその危険性が高まると予想されています。当別町でも実際に孤立死とみられた事例もあり、今後、増えていく高齢者が悲しい孤立死を迎えないようにするためにも、周りに居住している方の日常的なさりげない見守りが必要です。



写真のような状況は異変のサインかもしれません。

■異変を察知するポイント・サイン(一例)

- ①日中でも室内の電気がついている
- ②日中でもカーテンが閉じたまま
- ③夜になっても洗濯物が干してある
- ④郵便受けに新聞や郵便物がたまっている
- ⑤町内会行事、趣味の集まり、かかりつけの病院に顔を見せなくなった など

異変に気づいたら
すぐに連絡を



○とうべつ見守り安心センター
事務局：当別町社会福祉協議会内
電話 22-2301

地域で見守り 地域で支え合う

町では、ひとり暮らしの高齢者等が、安心して暮らせるように各町内会に福祉委員、民生委員を配置しており、見守り活動等を行っています。

また、町と当別町社会福祉協議会が連携して、地域全体で協力した総合的な高齢者福祉事業にも取り組んでいます。



地域サロン活動(毎月1回)
仲間同士での楽しい食事会

取り組みの一例

●当別町SOSネットワーク事業

認知症等により徘徊などで行方不明となった高齢者を、警察、消防、交通機関、町などの関係機関や町内の協力機関(郵便局、新聞販売所等)が連携して速やかに発見、保護するとともに、各種相談や必要なサービスの紹介を行うシステムがあります。



●配食サービス事業

65歳以上のひとり暮らし高齢者、虚弱高齢者夫婦世帯で食事の支度が困難な世帯に夕食を宅配し、健康の保持や訪問による安否の確認を行います。

- ・利用日 月曜日から金曜日
- ・利用回数 週5回まで利用可能
- ・利用料金 1食 400円



●愛の訪問サービス事業

65歳以上のひとり暮らし高齢者の希望者を対象に、乳酸菌飲料(ヤクルト)を宅配、声かけ訪問し、安否の確認を行います。

- ・利用日 週3回以内
- ・利用料 1本 20円



【次号予告】part 2「いきいきと暮らすために」

8月号では、増加する高齢者に対して様々な取り組み(サービス)を行う側・受ける側、双方の思いとこれからの高齢者福祉に何が必要なのか、また、住民一人ひとりができることは何かを考えてみます。



【高齢者福祉に関する問合せ先】

福祉課介護サービス係 ☎ 23-3029 当別町社会福祉協議会 ☎ 22-2301
当別町地域包括支援センター ☎ 25-5152